

富岡市議会経済建設常任委員会からの質問に対する答弁書

岡谷市では、市内企業を支援し、工業振興を図るために「岡谷市工業活性化計画」を策定しています。この計画では、企業の立地支援、生産性の向上、新技術などの開発支援、販路開拓支援、創業・事業承継支援などの施策が盛り込まれています。

この計画はおおむね5年に1度のペースで見直しを行っており、今年がちょうど更新時期になるため、お手元に御用意しました「計画書」は5年前のもので大変恐縮です。市から民間企業への支援策としては、具体的には、補助金制度や税制優遇措置、経営アドバイスなどが中心になります。

岡谷市の工業の特徴をあえて一言で表現しますと、「粗利益率（付加価値率）の高い部品製造」と言えるかもしれません。電子、機械、金属の部品加工技術において高い工業技術集積地であることが自慢であり、切削加工などの保有技術は業界で高い評価を受けております。他では真似ができない加工技術であるため、粗付加価値率49.3%と売上高の約半分が粗利益となっており、長野県下19市でトップです。ただ、市内約500社のうち半数が従業員3人以下の家族経営であり、人手不足や経営者の高齢化、継承者不足などが課題になっています。

市内企業を対象とした事業者アンケートで、今後取り組みたい期待分野としては、「航空宇宙分野」「医療・介護・健康関連分野」「自動車関連分野（特に電気自動車）」「生産用機械・ロボット分野」などが上がっています。

平成28年に国際戦略総合特区「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に岡谷市が追加指定されたこともあり、市内に拠点を置く長野県工業技術総合センターとも連携しながら精密・電子・航空技術部門の新事業開拓を進めて来ました。ただ、ロケットの打上げ等にかかりの人やお金をつぎ込んで試行錯誤して来たものの、なかなか事業化の軌道には乗せ切れず、今はしりつぼみに

なっているのが現実です。現在では、それらに代わって県の工業技術センターに「5G ラボ」が開設され、通信系の高速・大容量化の拠点化に軸足を移しつつあります。

また、市内の工業振興拠点として岡谷駅前に「テクノプラザおかや」があり、第4次産業革命の中心となるIoT（Internet of Things：あらゆるモノをインターネットにつなぐ技術）による産業用ロボットや製造設備の稼働状況の可視化、品質管理の自動化および高度化、エネルギー利用効率の最適化などの研究、加えてAI（人工知能）による業務の自動化についての研究、ロボットの活用による人出不足の解消策などの研究も模索しています。

しかし、理想と現実のギャップが大きく、これらの一連の研究は手探り状態でしかありません。「テクノプラザおかや」には現在、IoT化を推進する体制はまだ確立されておらず、専門の職員もいません。先程お伝えしたように岡谷市の産業形態が小規模事業者を主体としている事から資金面でのハードルが高くて、IoTの活用が民間独自では難しく、壁に突き当たっているのが現実です。

いずれにしても、岡谷市の強みである「超精密加工技術」をどの分野でどのように活用して行くのか、またその高い技術をどのように次世代に継承していくのか、小規模事業者の支援体制をどのように築いていくのか、などが現状での課題だと考えております。